



平成 24 年 2 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社 内 田 洋 行
代 表 者 名 代表取締役社長 柏 原 孝
(コード番号 8057 東証・大証第 1 部)
問 合 せ 先 取締役常務執行役員管理本部長
後 藤 弘 治
(TEL. 03-3555-4066)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 9 月 2 日の平成 23 年 7 月期決算発表時に公表いたしました平成 24 年 7 月期第 2 四半期累計期間および平成 24 年 7 月期通期の業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成 24 年 7 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正

(平成 23 年 7 月 21 日～平成 24 年 1 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	55,500	△800	△700	△600	△11 円 94 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	51,000	△1,130	△930	△910	△18 円 11 銭
増 減 額 (B-A)	△4,500	△330	△230	△310	—
増 減 率 (%)	△8.1%	—	—	—	—
ご参考 前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 7 月期第 2 四半期累計)	52,581	△1,752	△1,524	△1,430	△27 円 82 銭

(2) 平成 24 年 7 月期通期業績予想数値の修正

(平成 23 年 7 月 21 日～平成 24 年 7 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	124,500	200	400	100	1 円 99 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	122,000	300	600	0	—
増 減 額 (B-A)	△2,500	100	200	△100	—
増 減 率 (%)	△2.0%	50.0%	50.0%	—	—
ご参考 前期実績 (平成 23 年 7 月期)	118,025	△1,987	△1,506	△2,160	△42 円 51 銭

2. 個別業績予想数値の修正

(1) 平成 24 年 7 月期通期業績予想数値の修正

(平成 23 年 7 月 21 日～平成 24 年 7 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	80,500	△1,250	△600	△300	△5 円 96 銭
今回修正予想 (B)	79,000	△950	△400	△430	△8 円 54 銭
増減額 (B-A)	△1,500	300	200	△130	—
増減率 (%)	△1.9%	—	—	—	—
ご参考 前期実績 (平成 23 年 7 月期)	78,448	△2,540	△1,821	△1,782	△35 円 00 銭

3. 業績予想修正の理由

当第 2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響がまだ残り、依然として厳しい状況にあります。官民の総力を結集した復旧・復興努力により景気は持ち直しに転じてまいりましたが、急速な円高の進行や欧州政府債務危機の顕在化による世界経済の減速などが、景気回復を緩やかなものにしてまいりました。

このような状況のもと、民間企業の設備投資動向の影響が大きいオフィス関連事業分野においては、省エネルギー要請への対応に向けて ECO 事業をスタートさせ、遠隔会議システム・デジタルサイネージ等 ICT を含む空間構築ビジネスの提案活動にも注力いたしました。第 3 四半期以降に向け受注状況に回復の傾向が出てまいりましたが、当第 2 四半期の業績への寄与は限定的であります。また、公共関連事業分野においても、地方自治体の財政難、予算執行遅れ等により当初の予定を下回り、前年同四半期の補正予算需要での実績をカバーするに至りませんでした。

これらにより、当第 2 四半期連結累計期間の売上高は 510 億円（前年同四半期比 97.0%）となり、既発表予想に比べ 45 億円減少する見込みであります。また、営業損失は 11 億 3 千万円（前年同四半期は 17 億 5 千 2 百万円の損失）、経常損失は 9 億 3 千万円（前年同四半期は 15 億 2 千 4 百万円の損失）と前年同四半期実績は上回るものの、既発表予想は下回る見込みであります。また、四半期純損失は、平成 23 年度税制改正による繰延税金資産の取崩しの影響から、9 億 1 千万円（前年同四半期は 14 億 3 千万円の損失）となり、既発表予想を下回る見込みであります。

通期の業績予想につきましては、売上高は第 2 四半期までの減少を補うまでには至らないものの、一層のコスト削減効果を見込み、連結、個別ともに営業利益、経常利益は既発表予想を上回る見込みであります。当期純利益につきましては、第 2 四半期と同様の理由により連結、個別とも既発表予想を下回る見込みであります。

※上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上